

【青葉区】令和元年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年9月4日(水) 午後2時30分から午後4時まで
場 所	青葉区役所4階 401～403会議室
出席者	【座 長】横山正人議員 【議員：6名】行田朝仁議員、田中ゆき議員、平田いくよ議員、 藤崎浩太郎議員、山下正人議員、大貫憲夫議員
	【説明局員（青葉区）：32人】 小出重佳 区長、岡田勇輔 副区長、 勝島聡一郎 福祉保健センター長、 吉田雅彦 福祉保健センター担当部長、 上田祐一郎 青葉土木事務所長、 渊上正基 青葉消防署署長、 ほか関係職員
議 題	(1) 平成30年度 個性ある区づくり推進費 決算状況について (2) 令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況について (3) 青葉区の主要事業について (4) 令和2年度 青葉区予算編成の基本的な考え方
発 言 の 旨	行田議員 地域包括ケアシステムの推進における地域ケア会議の開催支援だが、これは非常に重要だと思っている。 地域ケアプラザは慢性的な人手不足であり、予算も足りていない状況だと聞いている。私は議会でも、もっと予算を積んだほうがよいのではないかと聞いている。地域ケアプラザの現場へ行くと、確認すべき訪問先は多くあるが、予算も不足し、残業代も払えないから行けないという声を聞く。一方で、認知症対策など様々な取り組みの実施が資料に記載されているが、大体が地域ケアプラザで実施されているものだと思う。地域ケア会議が重要であるとした際、こうした中では、おそらく人が回らないのではないかと憂慮される。 区では実態をどのように把握しているのか、例えばアンケートを取るなどしているのか確認したい。様々な手法がありアンケートが最良とは限らないが、実態把握はとても大事なことなのではないか。どのように把握しているのか、教えていただきたい。
	吉田福祉保健センター担当部長 地域ケアプラザとは、所長と毎月定例会で打合せを実施している他、担当者、担当係長が施設を訪問し、情報交換をさせていただいている。地域ケアプラザは高齢の方向けのサービスに加えて、障害をお持ちの方、お子様、青少年の問題も担当しており、ご指摘のとおり非常に守備範囲が広がっている。局からはコーディネーターをつけてもらい人員は増えてきているが、間違いなく地域課題も増えているという要素がある。地域ケアプラザの体制強化だけではなく、区も連携したり、効率的・効果的な事業を展開していかなければいけないと考えており、引き続き局ともよりよいサービスが提供できるように進めていきたい。
	行田議員 これは要望だが、アンケートでも何でもいいので、実態把握をお願いしたい。恐らく相当予算が不足しているはず。いろいろな工面をしながら運営していると思うので、それを要望したいと思う。 もう一点、DV専門相談事業について、今回は相談回数が10回、件数22件で、去年と比べて増えているように思われるが、数字としてはどうか。去年と直近を比べ、何か把握していることがあれば教えて頂きたい。
	椎葉こども家庭支援課長 DV相談事業について、専門相談のニーズがあり、専門相談は、弁護士相談として実施している数のため、1回に対して2名程度の方の相談をお願いしている。今までに10回行ったので22件という状況だが、必ず埋まっている状況である。

行田議員	<p>大変よく対応頂いていることは把握しており、警察も区と非常によく連携してやっているという話も伺っているので、是非継続して行って頂きたいと思う。このような相談窓口がある等、支援につながるような形で、広報がさらにあってもよいと思っている。不足しているのであれば増やしてもらいたいし、何とか支援の手が届くように工夫をもっとして頂くよう要望したい。</p>
山下議員	<p>まず、区民意識調査の件で伺いたい。 住み続けたい街というテーマで、数値は高いと思うが、前回から比べて落ちている。このテーマでは、不動産会社のリクルートが実施している住みたい街ランキングがよく出ている。これは議会の本会議でも取り上げたのだが、たまプラーザも以前はベスト10に入っていたが、今は28位と落ちている。この原因について、区長はどのように捉えているか伺いたい。</p>
小出区長	<p>例えばこういった年齢層の方がこういった回答をされているかなど、様々な視点から詳細を確認し、分析をしていきたいと思っている。ご指摘のとおり、青葉区の方も含め以前よりも東京への志向が強まっていると感じるため、青葉のほうに引き戻すということを主眼に置き、しっかりとやっていかなければいけないと思っている。</p>
山下議員	<p>今後の様々な調査の中で、データをクロスマーケティングにかけ、是非調べて頂きたい。恐らく様々な原因があるかと思う。青葉区は比較的交通の便もよく、住環境も良く緑も多いので、住みやすい街だと私自身も住んでいて思う。しかし調査結果にも出ているが、地域の関係が希薄化していると、住民がお客さんみたいなのところがあって、主体的に企画などに関わろうという意識が少し弱いように感じる。 そもそも本日の会議は青葉区の区づくり推進なので、2つの目的があるはず。一つは青葉区ならではの独自の事業を、市全体でやるのではなくて、青葉区だけで予算をつけてやろうというもの。もう一つは、モデル的な事業として、まずは青葉区で一回実験的に区局連携でやってみて、よければ市全部に回しましょうという意味合いのもの。ただ、今回の決算の内容を見させてもらって、全体的なバランスとしてどうしても偏りがあり、区局連携のものがそんなに多くないという認識を受ける。区長はその点について、どう感じておられるか。</p>
小出区長	<p>区だけの力というのは限りがあるので、局の力を借りるというよりも、局を巻き込み、局にきちんと要望してやっていく部分、あるいは区と局それぞれのいい部分の相乗効果を発揮しながらやる部分、そういったことをもっと強めていかなければいけないと思っている。</p>
山下議員	<p>もう一つ考えてもらいたいのだが、いろいろな民間企業などがもっと積極的に青葉区政の事業にかかわってもらえる仕組み、スキームができればいいと考えている。 政策局共創推進課では、横浜全体で受けるような事業もあれば、区単位でやった方が効果があると思われる事業なども様々あると聞いている。各区の企画力を上げるという意味で、区で窓口をつくり、そういった事業なども広げていけないか模索しているということを政策局共創推進課から聞いているので、そういったことに対して区民が自分たちの企画を持ち込んで、民間企業も協力して、自分たちもNPOも協力して、自治会も協力してというようなスキームを受ける窓口、青葉区版共創推進課みたいなイメージで、前向きに考えていく必要があると思うが、区長はどう思われるか。</p>
小出区長	<p>民間企業は、先進的なあるいは柔軟な発想も持っておられ、コラボレーションしていくとそういう面の効果も期待できると思うので、民間の方との協働は非常に重要であると認識している。区の厳しい体制という部分もあるが、非常に大事なことなので、政策局の所管部署と意見交換をしながらしっかりと考えていきたい。</p>

山下議員	<p>ぜひお願いしたい。確かに区は本当に少ない人材で多くの人口を抱えて区の課題をやってもらっているの、そういった人材面のサポートも考えながらやってもらいたいと思う。財源にも限りがあるので、民間の資金、民間の力、住民のパワーを使いながら、区の効率的な運営をぜひ今後とも区づくりの中で活かして頂きたい。</p> <p>最後に一点、道路愛称事業について、提案が1件ということだが、どこの道路か教えてもらいたい。</p>
續橋区政推進課担当課長	<p>青葉台の桜台交差点付近の道路について、桜楽坂（さくらざか）という案が出ている。</p>
山下議員	<p>1件で560万円の予算を全部使ってしまうわけではないと思うがどうか。</p>
續橋区政推進課担当課長	<p>全部使ってしまうようなことはない。</p>
山下議員	<p>これはなかなかおもしろい取り組みだと思っているが、実はなかなか認知されていない。1カ所こういうものができて、それを広報紙か何かでアピールすることによってもう少し増えてくれないと、事業がこれで収束してしまうのは寂しい気もするので、それも引き続き考えて頂きたいと思う。</p>
大貫議員	<p>2019年度予算で、経済局ではすごく画期的なことが起こり、小規模事業者というのが重要項目に挙がった。今までは中小企業ということで丸めていて、小規模事業者に対するフォーカスがなかなかされていなかったところが、今年度から変わった。これは非常にいいことだと思っている。そこで、小規模事業者というと、やはり区が全体を見て、区が主体的にその事業の継続と発展をさせることが大事な仕事になると思う。今年度の経済局の予算を見てみると、小規模事業者に対する施策が3つ出ているが、特に最後の、小規模事業者設備投資助成金は最大10万円だが、このパンフレットはすごくいいと思っている。</p> <p>それからもう一ついいと思っているのが、I D E C横浜が行っている小規模事業者課題対応のI D E C横浜の支援チームが出張無料相談する事業。今、手元にパンフレットを持ってきたが、このパンフレットが区役所内をみてきたところ置いていないように思う。小規模事業者にかかる三事業を成功させるためには、啓発、告知が大事なので、区として、まだ時間があるので、何らかの形で具体的にこういう事業をやっているんだと知らせてほしい。何とか残りの年度の中で具体的に事業を推してほしいが、いかがか。</p>
小出区長	<p>経済局が、小規模事業者の方々にフォーカスした事業を今年度は力を入れて行っていることは承知している。区においても、そうした制度や支援を利用したいという方への周知、PR、広報が非常に重要だと考えている。パンフレットの配架やホームページでもリンクも張りながらご理解いただくようなことは青葉区でも実際行っているが、目立たなくなってしまうかもしれないので、見直していきたい。経済局、I D E Cと連携して、事業者の皆様にご説明というような機会を設けるトライアル的なことも始めているので、引き続き経済局、I D E Cと連携しながらさらに進めていければと思っている。</p>
大貫議員	<p>配架しているだけではなく、もう少し大きなポスターなどを作って、目につくようなものをぜひやって頂きたいと思う。</p> <p>もう一点、私も高齢者になってきたので、車よりもバスに乗ろうと思って一生懸命乗っているのだが、雨のときに屋根がなく困っている。また、疲れても椅子がないことも困っている。何回もこの会議の場で言っているが、高齢者も含めて住み続けるためには、バス環境を良くしていかなければいけない。区として青葉区内で条件的に椅子が設置できるような場所や、上屋がつけられる場所を調査して、それを具体的に示してほしい。東急と市バスも含めて進めていかなければいけないので、そういった調査活動が必要だと思うが、いかがか。</p>

小出区長	バスをご利用になられる区民の皆様の利便性、あるいは安心感という部分は大事だと思っている。これまでも東急とは何回となく協議は行っている。そういう中で、他都市の例なども確認しながら、青葉区の中で何かそういうことができないかということは東急と話しているが、恐縮ながらまだ実現には結びついていない。引き続きそういった大事な部分について、東急だけではないが、話をしていきたいと思っている。
大貫議員	私が言いたかったのは、そういう可能性があるところの実態調査をやってほしいということ。それにより更に具体的に、市バスもそうだが、東急にもきちんと要求することができるはずだ。そのためには、条件がわからなかったらできないので、ぜひ調査をやって頂きたい。
小出区長	おっしゃるとおり歩道の占用に関する課題などがこれまでの確認の中でもあるので、そうした点を再度確認していきたいと思う。
藤崎議員	今年度はなくて昨年度で終わったのではないかという事業が幾つかあるので伺いたい。ブックカフェ事業の「あおばティーンズカフェ」は、今年度は見つけられていないのか無くなったのかははっきり分からないが、面白そうな取り組みである一方で、難しそうな取り組みだなと思っていた。実際にやってみてどうだったのか、教えてもらいたい。
佐々井子ども家庭支援課担当課長	この事業は、基本的に中高生を対象に行った。区も山内図書館と協働するなどして、アピールなどの工夫はしたが、例えば塾や部活であったりだとかいうことで、時間帯にもよったのかもしれないが参加者が伸びなかった。土曜日にも事業をしてみたが、なかなか中高生が忙しいことが課題となったように思う。また、「あおばみらいわくわくプロジェクト」では、今度は小学生を対象に、こちらも山内図書館と協力して、防災に関する本のリストを提供してもらったり、本の紹介をしながら話をしてもらったりし、できる限り子供の居場所と読書を広めるということを融合させる形で取り組んだ。なかなか本だけでは難しいところがあり、次年度は居場所を模索する中で、できる限り本も絡めていきたいと考えている。
藤崎議員	読書活動推進は非常に重要な一方で、居場所づくりそのものも難しいテーマだと思う。こうやって取り組んでいかれることは重要だと思っているし、結果を見て見直しをされることもいいことだと思うので、引き続き新しい形で取り組んでいただきたい。 あと、郷土の歴史を未来に生かす事業について伺いたい。「子ども歴史講座（縄文土器）」は2日間にわたって行われて、参加者が5人しかいなかったようだ。今年のメニューにはないが、5人というのも努力された結果だとは思うし、集客は非常に難しいと思う。ここから反省して何をj得ているのが重要だと思っているが、今回5人だったことをどう評価されたか、教えていただきたい。
鈴木地域振興課長	様々な機会をとらえて周知したが、5人ということで参加者が少ない結果となった。子供たちも塾や習い事など忙しい中で、参加出来なかったのだと思う。今年度はこういった形のは予定していないが、またご要望があれば考えていきたい。
藤崎議員	個人的な話で申しわけないが、私は考古学者を小学生のときに目指していて、卒業アルバムに考古学者になりたいと書いていた考古学少年だったので、非常に寂しいなと感じた。 あと、青葉シェアリングエコノミー推進事業で取り組んでいるスペースシェアの推進について伺いたい。これも青葉区で独自に進めていて、時代を反映した取り組みなので注目してきたが、昨年一年取り組まれて、どういった評価・実績だったかを教えてもらいたい。

鈴木区政推進課長	<p>スペースシェアの取組自体は、まだ今年度も継続して行っている。ただ、昨年度の11月から取組を始めて、当初は利用者数も伸びていたが、今年度に入ってなかなか伸びてきていないということで、今年度については再びPRをしていきたいと思っている。また、8月28日にスペースだけではないシェアリングエコノミーそのものの考え方についてのセミナーを開催し、幅広い区民の方に、スペースだけではないシェアリングエコノミーの取組をPRするとともに、スペースシェアの取組を継続して行い、なおかつそのほかのシェアについても検討していきたいと考えている。</p>
藤崎議員	<p>空き家・空き室の活用みたいなものにはニーズがあるものの、なかなか箱が見つからないということや、ニーズと供給のミスマッチなど難しいことがあると思うが、こういった取り組みでうまく実績を作ってもらえると、色々なところでうまくいけるのかなと思うので、期待したいと思う。</p> <p>最後に、スマートフォンアプリについて伺いたい。8月から情報発信が始まり、私も幾つかのアプリを入れて情報が来るようにしているのだが、果たしてあれがどれだけ活用されているのか、どのぐらいリンクがクリックされて情報をとられているのか、実績を教えてください。</p>
松本総務課長	<p>アプリのダウンロード数という形で考えると、大体8000ぐらいとなっている。今回、分野を増やすということで、改めて広げていきたいと思っているので、引き続きPRをしながら、アプリの導入を進めていきたい。</p>
平田議員	<p>「福祉保健センターからのお知らせ」で、外国人の登録者数は増加傾向で、青葉区でも同様かと思うが、子育てをしている外国人への支援状況などがわかれば教えて頂きたい。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>子育てしている外国人への支援の一つとして、外国籍の方も地域子育て支援拠点ラフールをよく利用されている。ラフールの中で外国籍の方がお見えになった時に、子育てのいろいろな相談や情報交換ができるように、言葉のわかる方との交流が図れる工夫をしながら対応をしていると聞いている。</p>
鈴木地域振興課長	<p>国際交流ラウンジも、外国につながる方の子育て支援を行っており、例えば何か手続の相談を受けるなど支援を行っている。</p>
平田議員	<p>多言語というか、英語が通じないとか、こちらが持っているものと向こうの求めているものが違ったり多様化しているので大変かと思うが、ぜひ今後も対応して頂ければと思う。</p>
田中議員	<p>まず2点、高齢障害支援について伺いたい。 1点目は、エンディングノートの書き方講座についてで、エンディングに関しては結構講座が開かれていると思うが、グリーフケアについて何か活動されているか。近ごろ地域の方で配偶者の方を亡くされて、かなり落ち込んでこもった状態にある方がいらっしゃるの伺いたい。 2点目は、医療・介護連携事業について、医療・介護連携の促進ということで、10回行われているということだが、青葉区にも在宅医療連携拠点があると思うので、そちらとのコラボレーションというか、何か一緒に協働して事業が行われているのかということを伺いたい。なぜかという、青葉区の在宅医療連携拠点は民間のメディヴァさんから支援を受けて、青葉区モデルという介護・医療・福祉連携のモデルケースとなっているようなので、活用されているのかを聞きたい。</p>

<p>松永高齢・障害支援課長</p>	<p>まず、グリーンケアについては、在宅医療連携拠点で講座を開催している。また、隔月で在宅医療連携拠点の医療と介護の連携会議である在宅医療・介護保険委員会に伺っており、情報交換や必要な調整を図らせていただいている。そうした連携をする中で、グリーンケアを扱っていただいているので、今年も1月に開催予定だが、こちらもPRなどの支援をさせていただいている。</p>
<p>田中議員</p>	<p>あと一点、地域の方からの困り事で一度相談させていただいたが、大体4月、5月ぐらいに小学校1年生の通学や学校の学習などで困った際に、地域のボランティアの方がついて、半日なり1日なりサポートする取組をしていると聞いている。その実施主体というか、事業の主体が区でまとめているのではなく、かなりばらばらで、待遇が違うということのようだが、今後、区で把握や何か支援していく方向性はあるか伺いたい。</p>
<p>佐々井子ども家庭支援課担当課長</p>	<p>区内の31小学校に確認したところ、まず小学校1年生のボランティアを導入している学校が31校中20校であった。そのうち、横浜教育支援隊という制度を教育委員会を持っていて、そこだと中学校区で来てくれるボランティアの方は基本的に無償で、中学校区外から来てくれる方については交通費相当だけ出すという仕組みがある。その教育支援隊制度だけを活用している学校は1校、教育支援隊とそれ以外の枠組みで工夫している学校が1校、残る18校は教育支援隊制度ではなくて、学校独自で工夫してやっているということであった。学校独自でやっていることについては、来てくれているボランティアの方は、例えば主任児童委員さんであったり、保護者が自分の子供の教室に入るという形だったり、地域の方であったりしており、その募集も、学校で募集している例と、PTAが募集している例と、学校によって様々となっている。依頼されている内容は、例えば給食室に給食を取りに行く補助や、その間に教室で見守る補助、配膳の補助、登校の見守り、午前中の教室内での見守り、下校の見守りなど、これも学校によって様々となっている。</p> <p>支援制度以外のところでは、基本的には延べ19校で行っているが、1校だけボランティアの方にPTAが購入した500円のクオカードを1回当たり1枚お渡ししていて、残る18校については完全に無報酬のボランティアということであった。先日質問をいただいた給食の提供については、給食を提供している学校が10校あった。そのうち、2校についてはボランティアご本人に実費負担を求めている、本人負担のない8校のうち1校はPTAが実費を負担しているということだった。こちらについては教育委員会にも聞いたのだが、給食については、原則は実費負担を求めるといった流れだが、いろいろ工夫してやっているのだろうとのことだった。</p> <p>これ以外に、ボランティアが入っている学校も入っていない学校も、例えば小学校6年生が1年生のサポートに入るということもあったので、必ずしも大人でなくてもいいと考えると、区役所でこうという決めるよりは、教室の数なども違うので、学校なりの工夫をしてやってもらっているという状態で、今うまくまとまっており、ひとまずはこれでよいのかなと思っている。</p>
<p>田中議員</p>	<p>また地域の方から声があったら相談させていただく。</p>

横山議員	<p>まとめて5点伺いたい。</p> <p>まず1点目、スポーツセンターについて、体育室の水銀灯は球切れを起こしているところはかなり多いので、この際、LED化も含めてご検討いただければと思う。</p> <p>2点目は区役所の駐車場について、来年度、指定管理者が変わることになった。新しい指定管理者予定者の提案の中に、事前精算機の設置が入っている。今は事前精算していないので、行事などで集中するときには相当出口で並んでしまい、並んでいる間も加算されるという非常に腹立たしい状況が起きている。事業者が提案していて、それを評価して選んだということなので、確実に青葉区役所で事前精算機を導入させるようにして頂きたい。</p> <p>3点目は、区民意識調査の速報値について、69%がこれからも今住んでいるところに住み続けたいと回答しているわけだが、家を買ってしまったなどの理由で住み続けざるを得ない人たちも、仕方なく住み続けたいと回答しているのではないかと私は思っている。実は世代間で意識がものすごく違う。若い人たちは仕事へ行くのに便利などに行きたいので、都内に住みたいと思っている人が非常に多い。なので、この結果をストレートに受けとめると、間違った政策判断をすることになってしまうので、世代別の回答率も次回の報告のときに出して頂きたい。恐らく高齢者ほど回答率が高いのではないと思う。ここはデータ分析上必要だと思うのでお願いしたい。</p> <p>4点目は、区づくりのコンセプト自体、自分のスキルを多くの区民のために使っていきたいというのも一つの大きな柱だと思っている。私は前にも指摘させていただいたが、中学の部活動指導員の人材不足、あるいは人材をどう求めていくのかということに中学校は非常に苦心しているので、ぜひ青葉で部活動指導員のプール制みたいなものも次年度の区づくりで考えていただければありがたいと思う。</p> <p>それと最後5点目に、毎回聞いているが、谷本公園の進捗、あるいは進展の状況を教えていただきたい。</p>
松本総務課長	<p>スポーツセンターの水銀灯の球切れのところはまず対応させていただく。LED化はどういう形でできるのかという課題はあるが、引き続き検討したいと思う。</p> <p>駐車場については、来年度から指定管理者が変わることになっているが、まだ詳細の説明は我々も受けていないので、その際に確認していきたいと思っている。</p>
續橋区政推進課担当課長	<p>谷本公園の用地取得の件については、前回会議と状況は変わっていない。ただ、毎年度重点的に予算を確保してもらっていて、着実に環境創造局に用地取得を進めてもらっている。地権者交渉についても、時期や手順など、様々な状況があるので、環境創造局ときちんと打ち合わせをし、必要に応じて同席している。今後も環境創造局と連携しながら早期に土地取得契約ができるよう努めていきたいと思っている。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>部活動指導員の関係については、教育委員会からの報告によると、全市で現在116名が部活動指導員として任用されている。それから、まだ任用されていないが、候補者がさらに25名いるという話を聞いている。区内の内訳までは報告を受けていないが、76校に配置という話が来ているので、この制度は引き続き区でも広げて、より多くの方が部活動の指導に携わっていただけるような工夫を考えていきたいと思っている。</p>
小出区長	<p>今、担当部長からお答えしたが、先生からお話をいただいた後に、教育委員会とも担当課長のほうで協議した。また区内の大学連携もあるので、その担当者会議で部活動指導員についてお話をさせていただいた。区内の校長会でも担当セクションから大学生のスキルの活用についての話をした。教育委員会で新たな枠組みについて、今進めている途上であり、ご報告しようとしているところのことなので、今後また教育委員会と確認・連携しながら、青葉区としてどのようなことが可能なのかを考えていきたい。</p>

鈴木区政推進課長	今回の区民意識調査について、調査票を送った人の年齢はわからないが、返ってきた方の世代はわかるので、集計結果が出てきた段階で世代ごとの内訳を表またはグラフでお示ししたいと思う。
横山議員	調査票は世代ごとに満遍なく送っているのではなく、無作為で送っているということか。
鈴木区政推進課長	無作為で送っている。市民意識調査もそうだが、男女比や世代比は考慮しないで、完全に無作為で抽出している。
横山議員	回答の中で、私は何歳ですという回答が出てくるということか。世代を選んで送れるはずなので、やり方を考えたほうが良いと私は思う。70%が住み続けたいというのは、申し訳ないが、実態と違うのではないかと思う。現に我が家の2人の子供は、満員電車に乗りたくないから、青葉区には住みたくないと言って都内に住んでいる。若い人はそういう世代だと思う。
鈴木区政推進課長	調査対象については政策局とも相談させて頂きたいと思うが、例えば回答で世代別の住み続けたいという集計結果は出るので、そのデータは示させて頂きたいと考えている。
小出区長	世代によって意識なり志向が随分違うだろうという部分は私どもも痛切に感じているので、クロス集計をしていく中でそういった部分をしっかりと分析して、施策に活かしていきたいと思っている。